

第36回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事録

●平成26年3月18日(火) 18:30～20:35、上尾市文化センター

【議事結果】

- 「維持管理・環境管理専門委員会」を設立し、資料にある細則を設けることを承認する（本日付で施行となる）。また、委員の募集を開始する。
- 来年度のモニタリング計画を承認する。
- モニタリング結果のとりまとめ報告書について、意見・要望を事務局に提出する。
- 旧流路Bを掘削しない案、河畔林の整備案を了承する。
- 来年度のイベント企画(案)を承認する。
- 広報用パンフレットについては5月のイベントで配布する必要があるため、修正作業は会長に一任という形とする。意見がある方は、一週間以内に意見を事務局まで提出する。

【主な議事内容】

◎協議事項

●第35回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会議事録

(質疑応答無し)

●(仮称)維持管理・環境管理専門委員会の設立について

- ・ 自然再生事業を持続的に実施するためにしっかりした組織・仕組みが必要である。今回の専門委員会の設立もそうした背景がある。
- ・ この件については管理目標WGでも議論してきた。この資料の内容で進めて頂きたい。
- ・ 管理目標WGは残るのか。
→専門委員会の設立が承認された場合は、管理目標WGは廃止となる。
- ・ 「維持管理・環境管理専門委員会」を設立し、資料にある細則を設けることを承認する（本日付で施行となる）。また、委員の募集を開始する。
- ・ 管理目標WGのメンバーは自動的に維持管理・環境管理専門委員会の委員となるのか。それとも希望者は応募用紙に記入する必要があるのか。また、来年度から別の専門委員会やWGに参加したい場合はどうすればよいか。
→希望者は、現在の管理目標WGのメンバーでも応募用紙に記入頂きたい。また、ほかの委員会やWGメンバーも随時募集しているので、応募頂きたい。

●生態系モニタリング専門委員会の活動

- ・ 来年度のモニタリング計画を承認する。
- ・ モニタリング結果のとりまとめ報告書について、意見・要望を事務局に提出する。
- ・ モニタリング結果のとりまとめ報告書は、どのように公表されるのか。
→冊子として配布することやホームページにアップすることを考えている。但し、貴重種情報の取扱は慎重になる必要があると考えており、生態系モニタリング専門委員会・協議会で

議論していきたい。

- ・過去の調査結果も対象にとりまとめることは重要である。将来、このようなデータは重要な情報となる。
- ・アカガエルの産卵が確認できていないとの報告であったが、現場の状況を教えてほしい。
 - 昨年もこの時期(2月)の調査では確認できなかったが、4月以降に幼生や成体を確認している。幼生の出現時期が一般的な知見の時期とややずれている様相があり、詳細は不明である。今年は10月の出水の影響で水域が大きく・深くなっており、アカガエル類には利用しにくい状態となっている可能性もある。ただし、周辺も含めて産卵が確認されていないことから、その理由までは特定できない。
 - 江川のサクラソウトラスト地でも、3月に入ってから産卵を確認している。
 - 三ツ又沼でも産卵確認は3/10すぎと遅かった。この春は生物全般に季節の進行が遅い印象がある。
 - 産卵時期に幅があるようなら、調査時期も幅をもって設定したほうがよいだろう。
 - 産卵を確認した時期を記録することも重要だ。経年的な傾向が分かれば、温暖化の影響も検討できる。
 - モニタリング結果のとりまとめにおいても、調査日を明記することが必要だ。
 - 年度が変わる3月下旬～4月上旬は、予算の都合から行政による継続した調査が難しい事情は理解できる。しかし、生物調査としては重要な時期でもあるので空白がないような配慮が必要だ。
 - このような時期は市民参加によるモニタリングを実施すると良いのではないか。
 - イベントとして取り組んでも良い。

●管理目標WGの活動

- ・モトクロス場跡地Aのアンジュレーションについては上手に変化をつけている。今後の様子が楽しみである。
- ・先例地見学に参加してみて、太郎右衛門の歴史を振り返ることも必要があるという感想を持った。
- ・仮設見学台は撤去されていたが、現在も見学者は結構いる。
- ・旧流路Bを掘削しない理由は、ヒシが減ってきているからということか。ヒシが減っている理由とそのことにより「掘削しない」とする理由を説明して欲しい。
 - ヒシは、三ツ又沼ビオトープなど、周辺地域で見られなくなっている。理由は良くわからない。周辺農地の農薬や肥料が流れ込む可能性も考えられる。三ツ又沼は、原生生物が少ないという報告をネットで見たとあるが、窒素過多の影響を指摘していた。また、夏の水温が異常に高いことが影響しているという説もある。旧流路Bにある池ではヒシが元気なので、手を加えないほうが良いと考えている。
 - 地下水の影響もある可能性がある。
 - 諏訪湖など大きな湖ではヒシが増えて困っている場所もあり、理由は良くわからない。
 - 三ツ又沼ビオトープでは、ヒシのほかに、エビモ、ホザキノフサモも同時期に減っている。ヒシは環境の指標としても利用できると思う。

→埼玉県は大気から降下する窒素量が全国で最も多いと言われている。

- ・ 旧流路 B を掘削しない案を了承する。
- ・ 河畔林の整備案を了承する。
- ・ モトクロス場跡地 D 地区では、繁茂する外来種の除去を 8～9 月に実施した。今回の実施は調査に位置づけられたものではなく、自発的なものであったが、来年度以降はどうしたらよいか。

→維持管理の内容や体制、関連する調整などは、新しい委員会で議論していく。

- ・ サクラソウトラスト地は 20 年以上前の外来種が入る前から活動をはじめたことで成果が出ているものの、近年は外来種の影響が自然再生を妨げる大きな要因になっている。維持管理の活動量について参考にしている三ツ又ビオトープでも、大変な努力をされているがそれが報われているのか疑問も感じており、今から自然再生する場合は、さらに大変な労力を必要とする印象がある。太郎右衛門の自然再生も維持管理の基準をどこにおいていくのか考える必要がある。

→大変ではあるが、何とかしていきたい。専門委員会の役割である。

●広報WGの活動

- ・ 来年度のイベント企画(案)を承認する。
- ・ 本田航空さんの倉庫借用について、調整中であることを確認した。
- ・ 今年度のイベントで助成を受けたサイサン環境保全基金について、4/19 に助成の交付授与式が予定されており、太郎右衛門自然再生のイベント報告をする予定である。(川島委員)
→感謝の気持ちを伝えて頂きたい。

●平成 26 年度のスケジュール

(質疑応答はなし)

●その他

○広報用パンフレットについて

- ・ 表紙タイトルのアピール性が弱い。字が小さく、色も弱い印象がある。字体や文も含めて見直しが必要である。裏表紙の地図には圏央道の整備予定ルートも入れた方がよい。
 - ・ 内容は大幅な見直しが必要である。広報WGに戻して、ターゲットなどコンセプトから検討すべきである。
 - ・ 裏表紙の地図では、この場所に到着できるか疑問を感じる。航空写真と地図をリンクさせることも必要ではないか。
 - ・ キツネ→ホンドキツネ、タヌキ→ホンヨタヌキと表記すべきである。
- 5 月のイベントで配布する必要があるため、修正作業は会長に一任という形とする。意見がある方は、一週間以内に意見を事務局まで提出する。